

Q4. 事務系の職員でも加入できるのか？ 建設系の仕事から離れた場合、保険の加入対象者としての資格を失うのではないのか？

—職務の内容に関わらず、「全建の正会員」であり、かつ、「公務員」の方であればご加入いただけます。

Q5. 退職後も5年間の補償が続くが、5年以降に結審し、損害賠償金が発生した場合は補償されるのか？

—損害賠償請求が最初になされた時点で保険に加入されていた案件であれば有効な保険契約として補償されます。

**ご注意!!**

この保険は、①「全建の会員である」ことと②「公務員である」ことが加入条件です。加入された後も、常に、①「全建の会員である」と、②「公務員である」であることにご留意ください！

(例：転勤された際、転勤先においても全建の会員登録手続きを忘れずに行っていただくようお願いします。)

上記のほか、よくある問合せについては、全建ホームページ（建設系公務員賠償保険制度）「よくあるQ&A集」にまとめてありますので、ご参考願います。また、パンフレットの請求やご不明な点につきましては、下記までお問い合わせください。

## 5. お問い合わせ先

○ 保険内容に関する問合せ・ご相談窓口・資料請求

取扱代理店：建栄サービス株式会社 竹田

TEL：03-3291-6340 E-mail:kenei-s-hp@kenei-s.co.jp

引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

TEL：03-3515-4122（担当）公務第一課 安斉

○ 会員に関すること等

団体保険契約担当：(担当)本会会員課 春日・露木

TEL：03-3585-4546 E-mail:kaiin@zenken.com

## Dr.クマの“健康のヒント”

### おたふく風邪



はしかに続いておたふく風邪の話題である。正式な病名は流行性耳下腺炎でムンプスという英語名も比較的知られている。風邪と言う名前から想像できるように普通は軽い症状でよくなるのだが、耳下腺が炎症をおこして腫れあがり、しもぶくれのお多福さんのような顔になるために、おたふく風邪という名前がよく知られている病気だ。基本的には軽症なまま回復するが、特に成人後にかかった場合には髄膜炎、睾丸炎、卵巣炎、頻度は低いが難聴などを起こすことがあり、問題視されている。効果的な予防法はワクチンの接種である。我が国でも1990年代にはMMRという麻疹、ムンプス、風疹の三種混合ワクチンが使用されていたが、ムンプスワクチンの

副反応で無菌性髄膜炎が問題となって中止されており、改良されたワクチンが海外で使用されるようになった今も再開されていない。現在の日本ではMRワクチンとムンプスワクチンを自主的に接種するしかない状況であり、その結果、散発的な流行がみられている。ウイルス感染であるため根本的な治療法はなく、対症療法が主体となる。前回述べた麻疹についてもワクチン接種が問題であった。病気の予防は自分のためだけでなく、社会全体への責任だと思ふ。苦しまないでよい人たちが苦しまないような社会を実現したいものである。

(北里大学 医学部 教授 熊谷 雄治)